

令和2年における旭川市の人口動態について

1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1~12月)人口動態

(単位: 人)

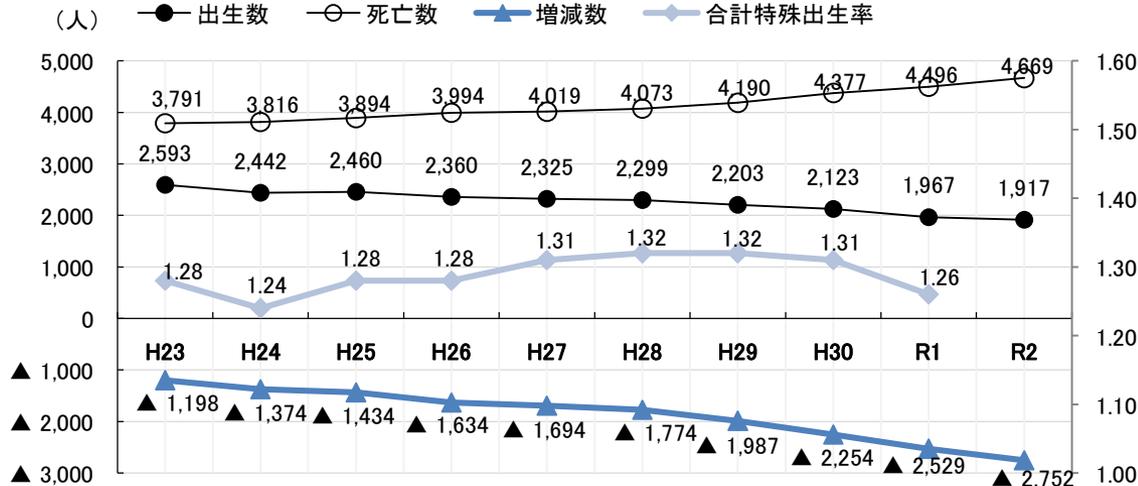
	1月1日 現在人口	自然動態			社会動態			全体 増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計	
平成30年	337,392	2,123	4,377	▲ 2,254	10,862	11,427	▲ 565	▲ 2,819
令和1年	334,070	1,967	4,496	▲ 2,529	10,800	11,593	▲ 793	▲ 3,322
令和2年	331,397	1,917	4,669	▲ 2,752	10,490	10,411	79	▲ 2,673
R2-R1差	▲ 2,673	▲ 50	173	▲ 223	▲ 310	▲ 1,182	872	649

(参照: 統計で見る旭川(市HP))

- 令和2年1月~12月における人口動態は2,673人の減少で、自然減2,752人、社会増79人(平成9年以来の社会増)となった。
- 自然増減は前年比223人の減少拡大、社会増減は前年比872人の増加となった。

2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1~12月)自然増減の過去10年間推移



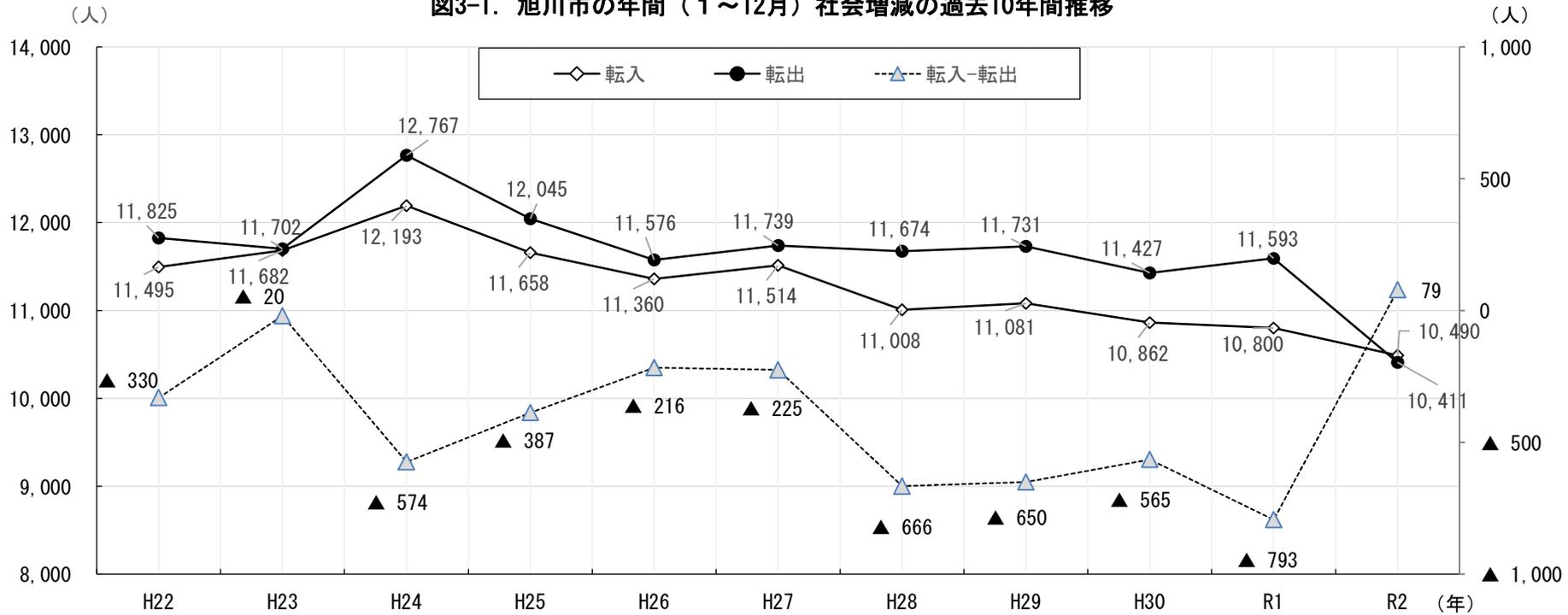
(参照: 統計で見る旭川(市HP)ほか)

- 死亡数は、増加が続いており、令和2年は前年より173人多い、4,669人となった。
- 出生数は、平成26年以降、毎年減少を続けており、令和2年は前年より50人少ない、1,917人となっている。
- 出生率は、平成24年以降、増加傾向となり平成28年には1.32となったが、平成30年に減少し、令和元年は1.26まで減少した。

3 社会増減の状況

(ア) 推移

図3-1. 旭川市の年間（1～12月）社会増減の過去10年間推移



(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和2年の転入者数は、10,490人で前年より310人減少し、過去10年間で最も少ない水準となっている。
- 令和2年の転出者数は、10,411人で前年より1,182人減少し、過去10年間で最も少ない水準となっている。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、前年より872人増の79人の転入超過となり、平成9年以来の社会増に転じた。
- 全体として転入は減少したものの、それ以上に転出が減少しており、令和2年は人口の移動が抑制されていたと考えられる。

(イ) 地域別転出入状況

図3-2. 過去5年間の道内移動

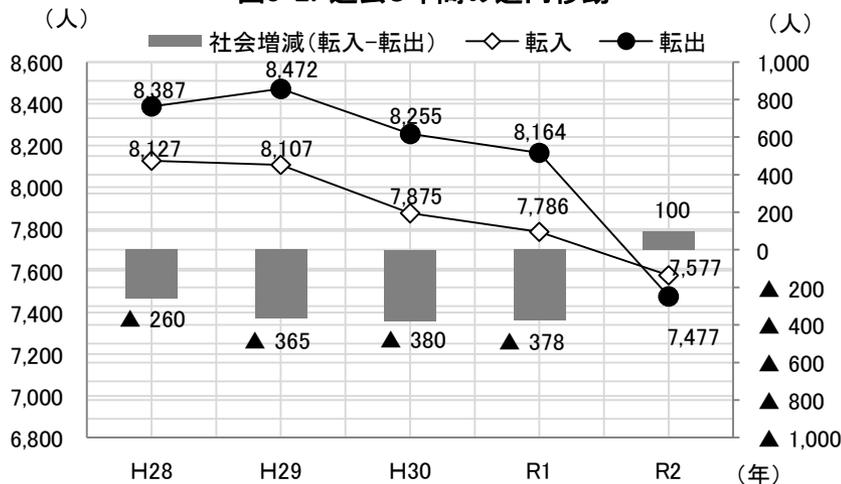
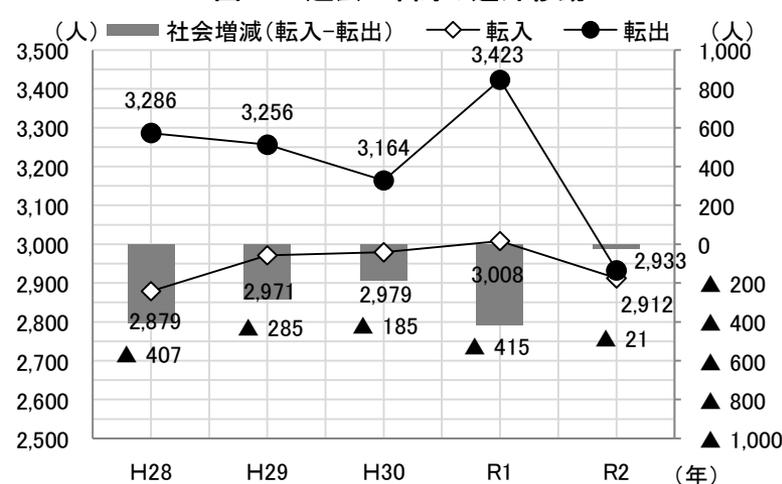
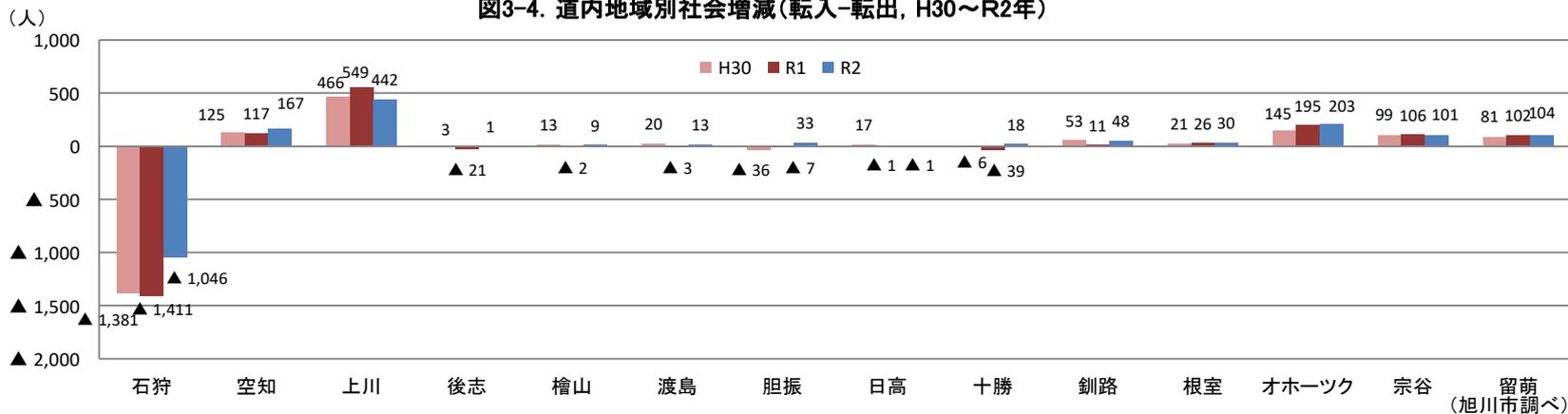


図3-3. 過去5年間の道外移動



(※図3-3は職権登録, 削除分を含む。)

図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, H30~R2年)



【主な特徴：道内、道外ともに転入と転出が減少、特に転出が顕著に減少】

- (図3-2) 道内移動については、転入、転出ともに前年より減少しているが、令和元年度は特に転出が著しく減少したことで、結果として100人の転入超過に転じた。
- (図3-3) 道外移動についても、転入、転出ともに前年より減少しているが、道内移動と同様、転出が著しく減少したことで、5年間で最も少ない21人の転出超過となった。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、転出超過が最も大きい石狩地区が前年より365人減少した。日高地域を除く地域で転入超過となっている。特に、空知、上川、オホーツク、宗谷、留萌といった道北、近隣地域からの転入超過が100人を超えている。

(ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

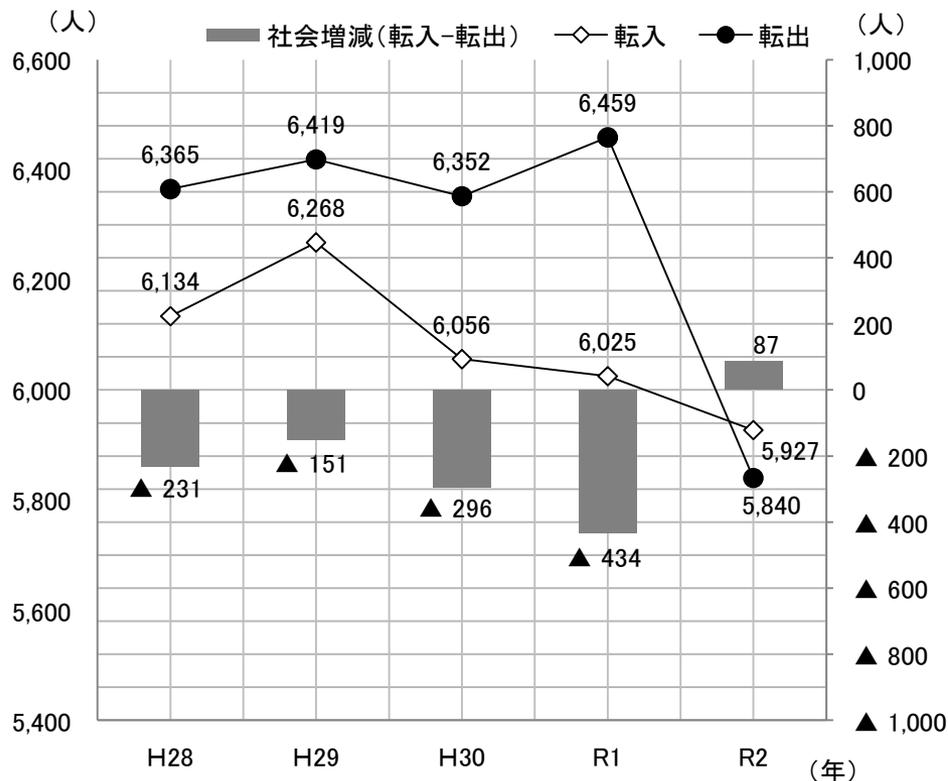
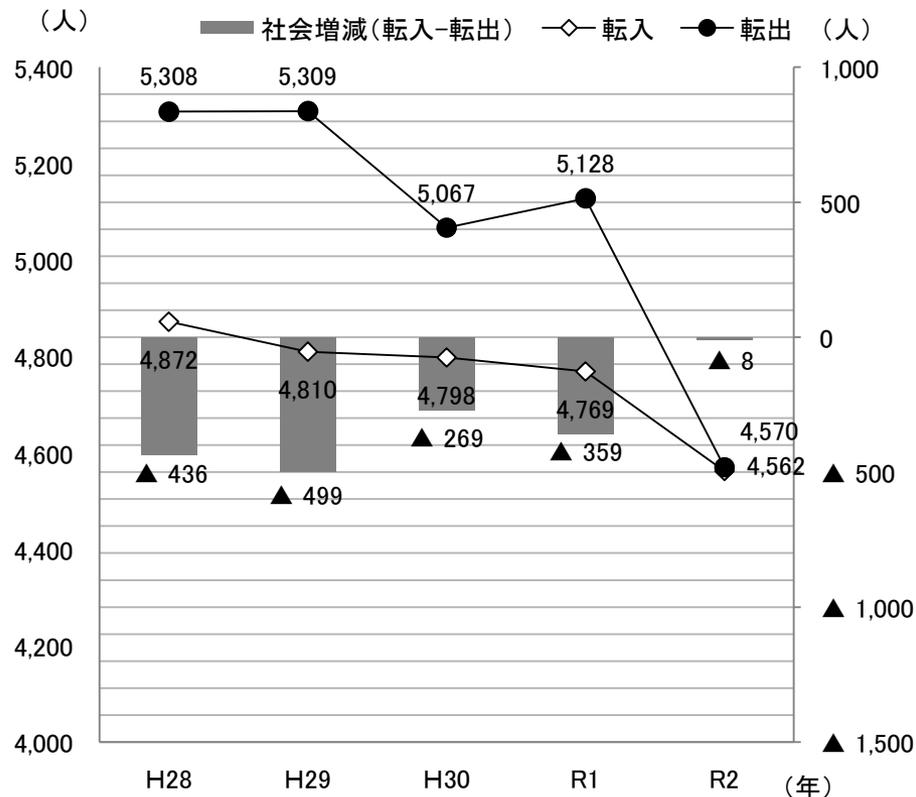


図3-6. 女性・移動推移



【主な特徴：男女とも転入，転出ともに前年より減少，特に転出が顕著に減少】

- (図3-5) 男性は，転入が前年より98人減少したが，転出が前年より619人と大幅に減少した結果，前年の434人の転出超過から，87人の転入超過に転じた。
- (図3-6) 女性は，転入が前年より199人減少したが，転出が前年より566人と大幅に減少した結果，前年359人の転出超過が，8人の転出超過に大幅に減少した。

(工) 年齢区分別転出入状況

図3-7. 年齢区分別(転入-転出)

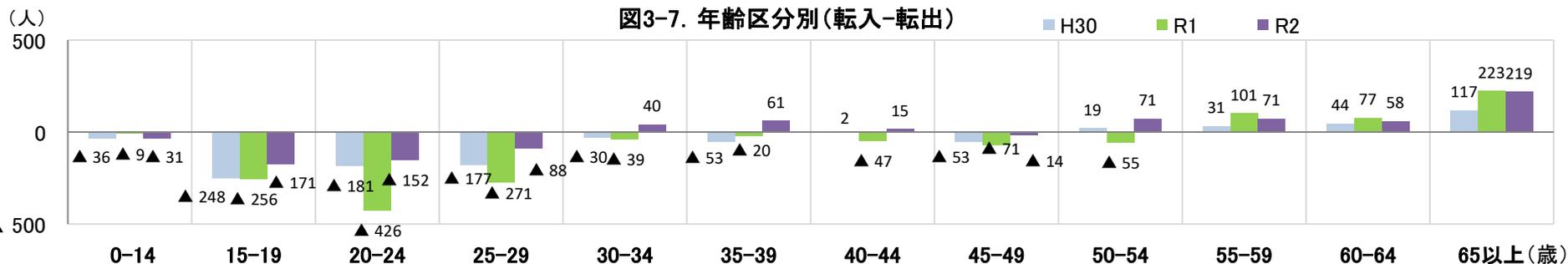


図3-8. 男性・年齢区分別(転入-転出)

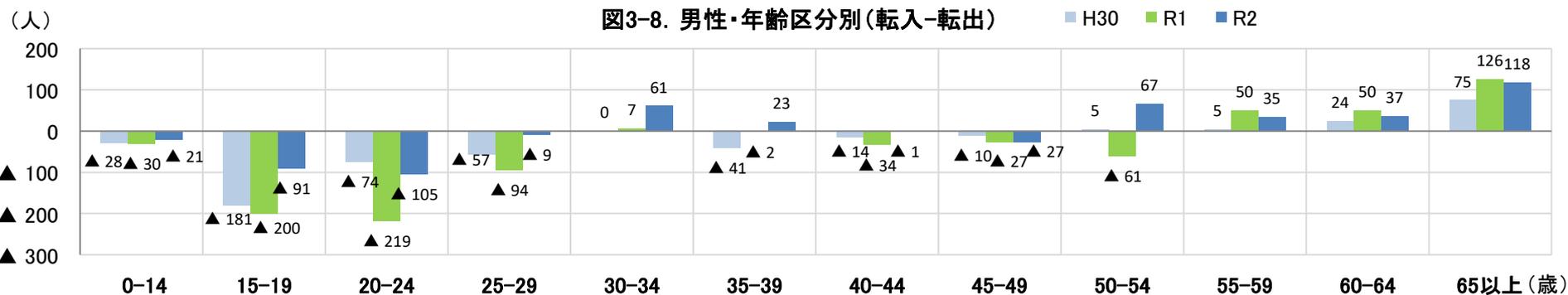
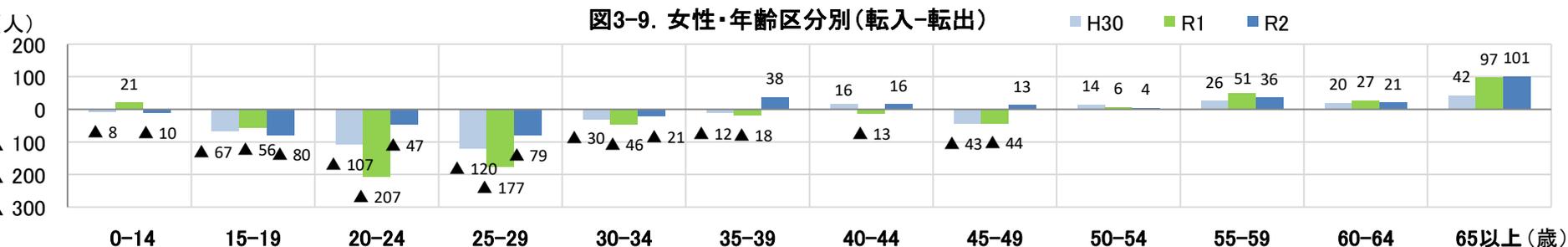


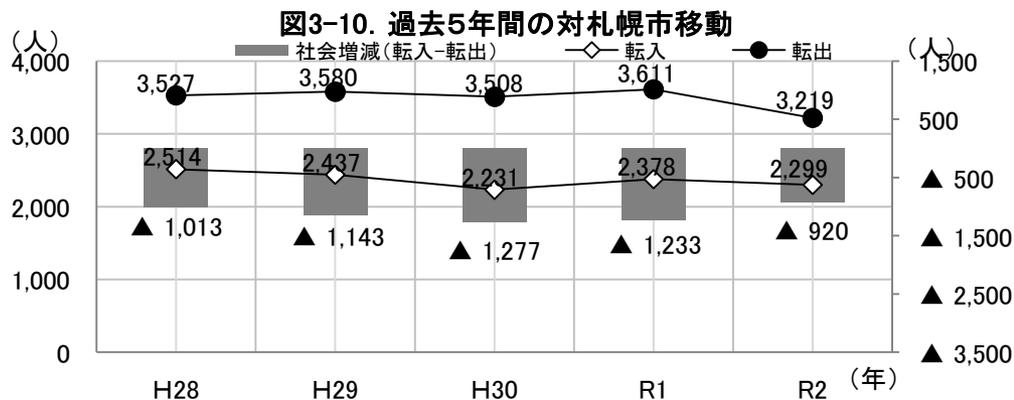
図3-9. 女性・年齢区分別(転入-転出)



【主な特徴：男女とも最も大きかった20歳代の転出超過が大幅に減少、30歳代では転入超過に転じた】

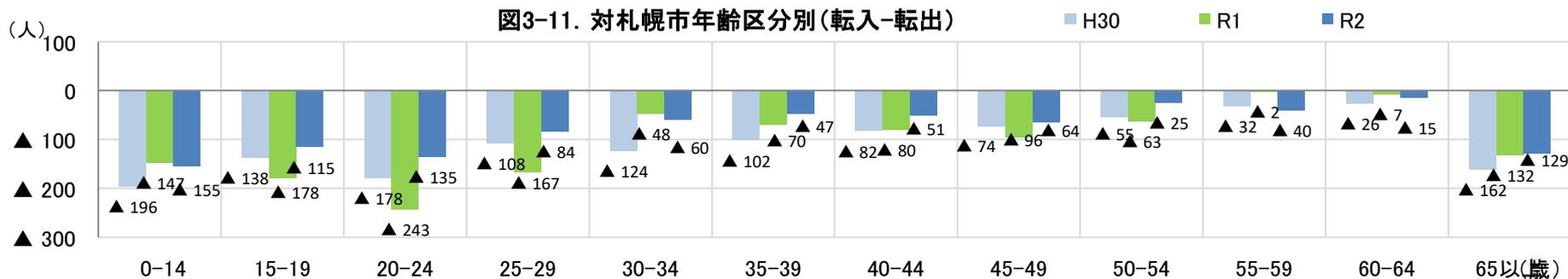
- (図3-7) 年齢区分別では、15歳-29歳の転出超過は継続しているが前年より大幅に減少、30歳-44歳は転入超過に転じた。50歳以上は全ての区分で転入超過となっている。
- (図3-8) 男性では、前年と比較し、15歳-19歳が109人、20-24歳が114人、25-29歳が85人の大幅な転出超過減少となった。また、30歳-39歳、50歳-54歳で特に転入超過の拡大が進んだ。
- (図3-9) 女性では、前年と比較し、20-24歳が160人、25-29歳が98人の大幅な転出超過減少となった。また、35歳以上の全ての区分において転入超過となった。

(オ) 対札幌市転出入状況



(図3-10)

道内移動でも最も転出超過となっている対札幌市との転出入は、前年より転出が392人減少、転入は79人減少した結果、転出超過数は前年より313人少ない920人となり直近5年間で最も少なくなった。



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっているが、前年と比較し特に転出超過が大きかった15-29歳の転出超過が大幅に減少している。

4 令和2年における人口動態のまとめ

- 自然減は拡大したものの、社会増減が平成9年以来の社会増に転じたため、前年と比較すると人口減少は抑制された(▲3,322人→▲2,673人)。
- 自然増減については、前年より、死亡数が173人増加、出生数が50人減少となり自然減の拡大が継続している。
- 社会増減については、転入が前年より310人減少したものの、転出が1,182人減少したため、結果として79人の転入超過に転じた。要因としては、人の移動が抑制されていたことが考えられる。
 - ・道内・道外ともに、転入は減少しているものの転出がそれを上回る形で減少しており、道内移動は100人の転入超過、道外移動は21人の転出超過となった。
 - ・年齢別では、相変わらず15歳-29歳の若年層の転出超過が大きいが、前年と比較すると大幅に減少している。